

古き良き世界より

神風響姫

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

遊戯王をやりたい人生でした……。望んでいたものと違うカードゲームの世界に
いつてしまった少女がデュエルマスターになるまでのお話。

目次

第一話 予想外の世界 | 1

第二話 カードゲーム、しよ？ (威圧)

9

第三話 初めての対戦 | 22

第一話 予想外の世界

——人は死ぬと天国に行ける、なんていう迷信を未だに信じている人はいないでしょうが、実際直面すると絶句してしまうものなんですネ。

西洋の庭園を彷彿とさせる庭。透き通るような水が湧き出す噴水。そこから伸びる水路が樹木に潤いをもたらし、辺り一面を占める澄み切った空気が、清楚な雰囲気を一掃強固なものにしています。

……え？ 白い何もない空間？ ヒゲの生えたジジイの五体倒置？ そんなの見たも面白くもなんともないじゃないですか。

だから敢えて、目の前に立つ変な人は視界から外していたのですが、無視したままだと話が進まないですし、状況が上手く飲み込めません。

なので説明プリーズ。すると老人はパアツと顔を明るくして起き上がりました。キ

モいんですけど。

「なんだかんだで死んじやったから好きな世界に転生しても良いんじゃないよ?」
「こいつ腹立つんですけど」

なんで疑問形なんですか。疑問をぶつきたいっていか殺意をぶつきたいのですけれど。マジ宇宙なんですけど。

話の詳細を聞いてみると、なんでも、元いた世界で突然事故死したけれど、気が向いたから助けてあげたはいいが、一度死した人間が蘇ると輪廻がどうか時空改変がどうかとか……意味不明な単語を散らしつつ長々とした説明をし始めました。間違いなく誤魔化しに入っているのが確定的に明らかだったので適当に頷きながら聞き流すことに。

それから15分後。

「というわけで、好きな世界を選んでちょよ」

「その語尾は死語だと思えます」

しかしそんな簡単に言われても、行きたい世界なんて思い浮かびません。

どうせ好きな世界に行けるのなら、自分のやりたいことができる世界がいいですね。そんな都合よい世界なんてあるはずが……いえ、ありましたね。

「カードゲームがある世界……いえ。カードゲームが大流行している世界がいいです。遊戯王デュエルモンスターズがある世界がいいですね」

社会現象になって世界のシステムに組み込まれるような、今までとは常識からして大いに異なる世界。

どうせなら、そういう世界に行ってみたいです。

平和な世界でもいいけれど、この機を逃したら一生無い気がしますし。

「え？ ゆう……ごめんなんだって？」

「デュエルモンスターズです！ 遊戯王の世界ですよ！」

「……………あー！ ハイハイ、それね！ うん、分かってるよ分かってる！」

おっちゃんちゃあんと分かってたんだからね！ 分かかってて試しただけなんだからね
バーカ！」

「なんで罵倒されなきゃいけないんですか」

まったく、よく分からんジイサンですね。

けれどもカードゲームの世界には行かせてくれるようです。いや、まさか本当に行けるとは……こんなチョロくて良いんでしょうか？ もっと神の試練的なものがあつて

しかるべきだと思いますけど。

まあ、向こうが許可を出したわけですし、問題ないですよ。

「あ、でも、お主を特別扱いするのはこれきりだから。よくあるチート能力やら特殊な生い立ち設定は用意できんぞ？」

「別にいいですよ」

そんなインチキは必要ないです。いや、デステイニードローとかシャイニングドローが欲しいとは思わなくてもいいですが、あると絶対ロクなことにならないと思うので。

そんなこんなで、ボクは転生することとなったのでした。

気がつくと、赤ん坊のボクは寝台の上で寝かされていて、両側から覗き込む両親の姿が。

……人生巻き戻しすぎですよ、もう。

それから十年。

わたしは小学生になり、ようやくカードゲームに触れる機会を得ました。

ええ、辛かったです。辛かったんですよ、今まで。

赤ん坊から人生リセットが、ではなく、カードゲームをやりたくて生まれ変わったのに、カードができなかったからですよ。

何故って、ボクは女の子ですから、カードゲームなんていういかにも男の子向けのアイテムやっていると茶化されるんです。

この年頃の子供ってのは非常に面倒くさくて、男子に混ざって遊んでいると男女扱いされたり、仲良くしてる男の子とデキてるだのなんだのとゲラ笑います。

「え？ お前女のくせにカードゲームやってんのwww？ マジかwwwおうちに帰ってプリキュアでも見てろよwwwwwwベラーwwwwww」

なんて言われる始末。ウザい小学生もいたもんですね、人が何したっていいじゃないですか。

からかわれるくらいならまだ良いんですが、勝負に負けると実力のせいじゃなくてカードのせいにして、カードを巻き上げようとする輩もいないとは言い切れません。実際そうやってレアカードを奪われたという話も聞きました。

そんな状況でカードゲームをしたって面白くもなんともないので、泣く泣く見送るところにしました。一体いつになったら遊べるのでしょうか……。

ですが十歳の時、転機が訪れました。家族の都合で引越した場所では、カードゲームが流行っていて、男女問わず盛んに行われているんだそうで！

これには思わずガッツポーズですよ。残念ながら都心近くに住むことは叶いませんでしたが、この際なんだったって良いのです。とにかくカードゲームがやりたくて仕方なかったボクにとって遊べればなんだったって良いですハイ。

さらに幸いなことに、カードショップは小学校と家から近いところにあるので、学校帰りや休日に気軽に遊びに行ける距離だったことです。

これは遂に私の時代到来の予感がしますよ。やったこれで心おきなく海馬社長ごっつ

ことかできますよ！ 近所の公園でやってると頭弱い子だと思われそうなのでシヨツプでしかできませんしね（※実際やって追い出されても責任はとりません）

え、どんなデツキが好きですかって？ そうですわ……あまり多くは語れませんが、トリシューラは愛用してましたね、主に『インフェルニティ』でお世話になりました。『甲虫装機』や『カウントダウン』、それに最近では『征竜』や『マーメイル』も使ってみましたよ。ワンキル系も好きですがカウンターも愛用してましたね。ええ、割とガチでしたが何か？ 大会はあんまり出ませんでしたけど。

さあどんなデツキ作ろうかなー？ でもお小遣い少ないし、強いデツキ作れないかな。あまりお金がかからないデツキを作ろう。マシンナーズとかなら、構築済みデツキがあるし、『ギアギア』のセットが確か出たから、それで強化されてるかな？ ずいぶん前に出た『セイクリッド』も使いやすかったなあ。プレアデスとトレミス高いからなんとも言えないけど。

色々な想像を膨らましながら、カードシヨツプへ全速前進です。

一人で行くのはちよつと怖い……なーんて心配ご無用、既にお友達とお待ち合わせ済みなのです。同じクラスの紗雪ちゃんという子が、なんと一緒にカードゲームをやらないかと誘ってくれたんです！

やった！ これでボツチ呼ばわりされなくて済みますよ！ 新しいデツキ組んでも友達がいなくて延々と一人で二つのデツキ回さなきやいけないなんて事態もサヨウナラ。もうボクに怖いものなんてありません！ フハハ最強ではないか我が人生は！

さあ、私の楽しい楽しい遊戯王人生の幕開けですよ！

「紗雪ちゃん！ （遊戯王で）遊びましょー！」

「リオンちゃん！ いっしょにデュエマやろうよー！」

全然ちがうじゃないですかもおおおおおおおおおおおおおッ
!!!!!!

第二話 カードゲーム、しよ？（威圧

デュエルマスターズ！

それは今、世界で注目を集めているカードゲームだ！

ルールは簡単！ 40枚のカードを用意し、デッキを作る！

手札を使い、クリーチャーを召喚したり！ 呪文を唱えたり！ 時には城を使いこな

し、クロスギアの力を借りて、相手とのバトルに勝利しろ！

お互いのプレイヤーに用意された、五枚のシールドをブレイクし、相手にトドメをさした方が勝利となる！

さあ。今すぐ君も、デュエマなう！

※なお、デュエルという名称がついているが、遊戯王デュエルモンスターズとはまったく関係がない。

「ちつきしよおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!」

第二話 カードゲーム、しよ?(威圧)

ああ、神様マジ何考えてるんですか。馬鹿なんじゃないですか神様。末代まで呪いますよ神様。長くて面倒だから神じゃなくてゴミ虫でいいですかね。

な・ん・で！ 遊戯王じゃなくてデュエルマスターズの世界なんですか！ そりや遊戯王は『遊戯王デュエルモンスターズ』なんて名前でしたけど！ ちよつと似てるけど！ 全然違うじゃないですか！ 中身は宇宙の果てまで違いますよ！

「リオンちゃん……デュエマ、やらない？」

そんなボクの心境などおかまいなしに、不安げな顔で下から覗き込む紗雪ちゃん。

くつ、なんとというチワワ系オーラ！ 構ってあげないと死んでしまいます的な雰囲気
がピシバシと伝わってきますよ！ でも腕を寄せて胸を強調するのはやめて下さい。
なんですかその武器は。

「デュエマ、ですか……」

手にとってみると、遊戯王のそれよりひと回り大きいことが分かります。

こうして手にするのは、初めてですね。デュエマは。

そりや、カードゲーマーだった私でも聞いたことがあります。世界的に有名なカード
ゲームメーカー、WOCが開発したTCG、『マジック・ザ・ギャザリング』。世界で最
初に生まれたTCGとして注目を集め、爆発的な人気を誇りました。

その会社が、メインターゲットを小中学生に移し、より分かりやすく、より簡単にし
たものが、『デュエルマスターズ』です。

以上解説終わり。

当たり前の話ですが、デュエマが主流となっている世界に遊戯王なんてありません。ボクがやりたくて仕方なかった遊戯王はありません。どれだけ探してもデュエマしかありません。ヴァンガードもZXもありませんけど。

試しに通りがかる人に「遊戯王って知ってる?」と訪ねてみたところ、「どこの王様?」と首をかしげられました。知っててとぼけてんじゃないかと思わなくもないですが、世界的に有名なTCGがカードショップに置いてない時点で諦めざるを得ませんでした。ちくしょう。

まあ、いいですよ。諦めますよ。

こうなったらデュエマやってやりますよ。

TCG自体好きですから、ハマればきつとのめり込むのは想像できますしね。結構続いているカードゲームですから、多くの人に愛されているでしょう。環境バランスも割と良いらしいと聞いた気がします。

十年も昔なので、かなりあやふやですけどね。

「まずカードプールを把握したいところですけど……」

遊戯王ほどではないのでしようけど、デュエルマスターズの歴史も相当長いです。確か私が転生する前では、子供の頃からやってきましたからね。恐らく十年くらいは続いています。

それだけ愛されているということでしょうけど、その分カードプールは相当なものになります。

実際、紗雪ちゃんに聞いてみたところ、数千はあるんじゃないかとのこと。たまにパックに封入されていない幻のカードも存在するとか何とか。未確認カードが存在するのはどこぞのカードゲーム世界でも一緒のようですね。めんどくさ。

最悪なことに、シヨップ定員の人に聞いても、正確なカード総数どころか、現状どれだけの種類のカードが出回っているのかわかっておらず、どの名称のカードがどういう効果なのかもイマイチ把握できていないんだそう。おいおいそんなに良いんですかアంత。

生憎遊戯王一本に絞っていたボクは、ちょっと子供向けかなーと敬遠していたので、こういう環境なのかわかりません。

一応、聞きかじった程度のルールは知っています。しかし残念ながら、それはあくまで初心者中の初心者程度の知識しかありません。ルールを知っている、これは必要最低限、スタートラインに立った、あるいはその前段階の準備に過ぎません。強くなるには、相手が使うカードからデッキを把握する程度の知識は必要でしょう。

幸いなことに、紗雪ちゃんは私がデュエマ素人だと分かっています。カードゲームをやったことがない、と言っておきましたから、ええ。この世界のカードゲームは。

なので親切にもいちから教えてくれるそうで！ 持つべきものは友達ですわ！ わざわざ取扱説明書と公式HPのQ&Aとにらめっこしながら自分でデッキ二個使つてW i k i 見つつプレイなんてぼっちプレイとはおさらばですよ！

あ、なんか涙が……。

さ。とりあえずデッキを用意するところからです。

生憎、この世界に構築済みデッキなんて初心者向け上級者パーツ集め専用商品なんてありませんでした。なんて不親切な世界なんでしょうか。いきなりストレージからカード引っこ抜いて作れオラアなんてひどくないですか。子供はどうやってルール把握すればいいのやら。

とりあえず、一度カードがどういう感じなのか、実際見てみない限りには何も分かりません。どんなデッキを作れるのか、どういう風な特徴があるのか。ボクは何一つ知らないの——

「紗雪ちゃんにお任せします」

「ダメ！ ちゃんと自分で作るの！」
んな無茶な。

背中をグイグイ押されて、ストレージの前に立ちます。まあ、どのみち見てみたかったので構わないんですが。

紗雪ちゃんもお手伝いしてくれるらしく、使いたいカードがあるならそれを使ったデッキにしよう、と提案。まだ見たこともないのでなんとも言えず、ごちゃごちゃに突っ込まれたストレージから見繕うことに。

しかしなんですかね。やっぱりカードゲーマーとしての血が騒ぐのでしょうか。カードを眺めているだけで幸せな気分になれます。

が、

「なんかストレージからカレーの匂いがあるのが非常に気になるのですけれど……」

「そ、そういうカードもあるんじゃない？」

おかしくないですかそれ。

ちよつと嫌な顔をしつつも、カードの山に向き合いました。大丈夫ですよね？ 手にカレーの匂いがつくカードゲームなんて嫌ですよ？

「お」

一枚適当に引っこ抜いて見ると、こんなカードでした。

●ブラッディ・イヤリング

闇文明 クリーチャー：ブレイン・ジャツカー

2 マナ パワー4000

■ブロッカー

■このクリーチャーは攻撃することができない。

■このクリーチャーがバトルする時、バトルの後、このクリーチャーを破壊する。

すごい、パワー高いです！ 究極龍やF・G・Dじゃないと倒せないじゃないですか！
こんなの先攻で出されたらサイバードラゴンパワーボンドツインドラゴン二連打ア！でも相手のライフ削りきれないじゃないですか！
どんなパワーインフレですかこれは！

「2マナだから1ターン目じゃまず出せないわよ……」

紗雪ちゃんに呆れられちゃいました。だってしょうがないじゃないですか、細かいところまでは知らないんですもの。

ボクがカードをじっくり見て騒いでいる間にも、紗雪ちゃんは隣で頭を悩ませながらデツキを考えてくれています。これは邪魔しちやマズいですね。わざわざやってくれるのですから、その厚意を無下にはできません。

分からないことは後で聞くとしましょう。

いやあ、しかしなかなかイラスト良いですね。超獣世界の住人つて雰囲気がいっぴり伝わってきます。これは大人にも人気があるんじゃないでしょうか。

躍動感あるポージングも、子供の興味をさぞ引くことでしょう。

ネーミングも時々厨二心をくすぐるような、カッコ良いものが多いですし――

- ドンドン 吸い込むナウ
- ドンドン 打つべしナウ
- ドンドン 叩くナウ
- ドンドン 守るナウ
- どんどん 掘るナウ

ボクは見なかったことにしました。

「おや? これは……」

それからしばらくして、ひと際目をひくカードを見つけました。一見他とやら変わらない普通のカードなのですが、イラストが特徴的です。なんとパックを剥いたような絵なのです。

●カモン・ビクトリー

水文明 呪文

3 マナ

■S・トリガー

■E2またはE3のブースターパック1袋を開封し、その中から1枚選んで手札に加える。残りを自分のコレクションに加える。

????????

開発者は一体何を考えてこれを作ったんでしょう……。最早存在からして意味不明なんですけど。まるで意味が分からないのですが。

恐らくこれは、開発側のお遊び的なカードなんでしょうね。そうだと思いたいです。まあでも、こういったユニークなものも子供向けカードゲームなら、案外アリかもしれません。

第一、こういう悪ふざけ的なカードが大会環境に割り込んでくるなんてありえませんか。……ないですよ？

しかし更に見ていくと、カードの印刷が上下逆になっているものや、明らかに子供の落書きなんじゃないかってものとか、別の漫画のキャラクターが描かれたものとか、とにかくネタ臭漂うものがまあ出るわ出るわ、それこそネタカードだけでデツキひとつ組めるんじゃないかってくらい発掘してしまいました。

なんかちよつと心配になってきました。大丈夫なんですかこのカードゲーム？ システムバランスは整っていても、プレイヤーのモチベーションを著しく低下させるようではちよつと手が出しづらんですが……。

いや！ 大丈夫です、問題ありません。せつかく紗雪ちゃんとお友達になれたんです、ここで逃げたら一生カードゲームできなくなっちゃいます。それは嫌です。

考えてみれば、悪いところがないTCGなんてありませんよね。それくらいで挫け

ていたらカードゲーマーはやつてられませんか。逆境を乗り越えてこそ真の決闘者ですよ。あ、こつちじゃ真のデュエマつて言うんですか。ややこしいですね。

ようし! ちよつとやる気出てきましたよ! さあ紗雪ちゃんかひと段落したら、前向きになっていゝうちに早速対戦し――

「カレーパンはどこじゃあ!」

「すべツカム!」

「カレーパン、好きだよな?」

「カレーパンを食つてやるぜえ!」

「カツドンでダイレクトアタックだ!」

「馬鹿が! イカガ・イカガでブロックだぜ!」

「アン・ドウ・トロワ! ハイサイ・ラツシャイ!」

「ああつ! 俺のメリコミ・タマタマがつ!」

もう一回死ねば遊戯王の世界に行けますかね、神様……。

第三話 初めての対戦

デッキ作成をするにあたって、まず何がしたいのか、何を主軸にしたデッキなのかを考える必要があるわけですが、真っ先に考えついたのは、

「こう、相手がデュエル開始と同時に後攻になったら漫画を読み始めてターンを渡さずに勝利できる、みたいなデッキを……」

「ほんとにそんなので良いの？」

別に良いのですが、そんなのをフリー対戦でブンブン回していたら友達がいなくなっちゃうというか紗雪ちゃんに嫌われるのは目に見えていたので、さすがに控えることにしました。

(なら、やっぱりこれでしようね)

デュエルマスターズというカードゲームの特徴を、最大限生かしたデッキ。

私が作るなら、まず最初はこれだと決めていました。……嘘ですごめんなさい。ワンキル上等でしたすいません。

でも気に入ったカードがあつたので、それと相性の良いカードがすべて安価だったのですよ。財布ポイント、もとい、お小遣いの少ない小学生にはうってつけのデッキと言

えるでしょう。

これには紗雪ちゃんも否定はしなかったのですが、ボクが使いたいと思ったカードには、ちよつと思うところがあるようでした。

「結構、珍しいカードを選ぶのね。でも良いの？　これ、初心者向きだけど、まだルール覚えてないリオンちゃんが使うにはちよつと難しいんじゃない？」

「大丈夫です。紗雪ちゃんが教えてくれればなんとかなります」

「もう、他人任せじゃない」

などと言いつつ、ちよつぱり嬉しそうな紗雪ちゃん、なんだかんだでデッキをまとめるのを手伝ってくれます。

「あ、そうだ。リオンちゃんにこれあげる」

思い出したかのように、ポケットから一枚のカードを出しました。それはストレージには入っていないかった、思わず目を見開いてしまうくらい素晴らしいイラストのカードでした。

「このデッキと相性は良くないけど、私が持っていて使わないから」

「いいんですか？」

「いいわよ。今日から始めるリオンちゃんへのプレゼントよ」

ニッコリ笑う紗雪ちゃん。なんとという女神……ボクが男だったら即刻オトされてま

すわ。でもその胸にある武器はどうにかしてください。もしくは分けてください。

そして、紗雪ちゃんがくれたカードを入れて、デッキができました。誰ですか良いデッキがデッキるよとか言ったのは？ 気のせいでしょうか。

ルール説明をしてくれるそうなので、実際デッキを動かしながら教えてくれることに。

紗雪ちゃんは店頭で初心者用デッキを借りて、デュエルスペースへ。……ちよつと待ってください。そんなのがあんならボクも最初からそれ借りれば良かったんじゃないのですか？

「最初からこんなの頼っていたらいつまでも強くなれないじゃない。それに、デッキの作り方も早く教えた方が楽なもの」

紗雪ちゃん、ひよつとして面倒くさくなつてませんか。ルール覚えてないのにデッキの作り方教えられてもチンプンカンプンなんですけれど……。

ま、まあ仕方ないですね。紗雪ちゃんとして小学生、理屈も道理も定かでないお年頃です。ここはボクがおとなしく引き下がることにしましょう。

「じゃあまず、最初の手順から……」

「いえ。ここはまず一回勝負してみましようよ」

ボクの予想外の提案に驚く紗雪ちゃん。そりやそうでしょう、まだルールも把握しきれていないのに対戦申し込まれるとは思いませんし、ははずですから。

「だってリオンちゃん、まだルール知らないんでしょ？」

「大丈夫です。カードなら拾つ……じゃなくて、ルールブックなら拾いましたから」

「どこで？」

その辺です。

真面目な話、細かいルールはわかりませんよ。でもターン手順とか名称くらいなら、ある程度は分かりますよ。慣れるより慣れろ、百聞は一見に如かず。口で説明されるより、実際見たほうが早いものなのです。

「本当にいいの？ 説明もするし、一応手加減はするけど」

「平気ですよ。カードゲームなら得意ですから」

「デュエマ、やったことないんじゃ……」

「大丈夫ですから！ ところで同じ名称のカードは3枚まででしたよね？」

「同じ名前のカードは4枚までよ……」

「手札は7枚まででしたね」

「もうダメでしょこれ」

ふっ。紗雪ちゃんは甘ちゃんですね。カードゲームが一種類とは限らんですよ。この世界には存在しなくても、ボクには遊戯王で培った頭脳があるのです！ゲイルの効果処理を把握したボクに不可能なんてありません！サクリファイスは分かりませ

ん！いい加減調整中はやめて下さい！

さあ、ボクの本気を見せてあげるのです！

「ボルシヤツク・ドラゴンで、トドメーっ！」

「ほげえーっ!!!」

負けました。あれえ？

第三話 初めての対戦

おかしい。これは絶対おかしい。何かの間違いだ、そうに違いありません。この可愛……オホン、このボクが負けるなんて信じられません。きつと何かあったんです。そう、これはデッキが事故ちやったんです。

「何も考えずに攻撃すればそうなるわね」

何も言い返せませんでした。

体験してみても分かったのですが、このゲーム、構築によってデュエルの優劣がアツサリ覆ります。遊戯王みたいに一度動き出して止められなければ大量展開して即攻撃、そして勝利、とはいかないようです。手札や墓地が重要なのは大抵のTCGの共通認識なんですけれど、デュエマはそこにシールドの概念が入ってくるわけです。

シールドがライフ代わりとなっていて、攻撃するたびにシールドが手札に入ってくるので、次のターンでの行動の選択肢が増えるため、その都度チャンスが訪れる。このシステムはなかなか面白いと思います。ワンサイドゲームになりきらず、すべてのデッキに等しく逆転の機会を与えているのですから。

回せば勝てる、だけで済まないのがデュエルマスターズ。一方的な展開を行っても、「シールド」があれば逆転の見込みは十分あるとのこと。

このように大胆な逆転劇をあらゆるデッキでも再現可能なカードゲームって珍しい気がします。たいていのTCGだと、回した者勝ちですからね。

どんなデッキでも勝てる可能性はゼロにならない。それは大きな長所と言えるでしょう。

……プレミアム殿堂とかいうオーバースペック系カードの存在はさておき。出しただけでエクストラターンとか、おかしいでしょう。八咫鳥？ DDB？ 知らない子です。

「とりあえず、これでどういう特徴があるのかは分かったでしょ？」

「そうですね」

おおまかな特徴は掴めたと思います。たぶん。

そりゃあ一回や二回回して全貌がつかめるなら苦労はしませんよ。

「じゃあ、あとは整えていくだけね。いらぬカードを抜いて、必要になるカードを補充して」

「動きが円滑になるような形にもっていく、と」

デッキの構築を最善にもっていく。TCGの醍醐味って、大会に出て勝負に勝った時と同じ位、構築をあれこれ考えている時って楽しいものですよね。

「見せてもらいましょうか、3000円で作れる大会でも通じるガチデッキの実力とやらを」

「そんなの無理よ」

「えー……」

そんなこんなで。

紆余曲折を経て、ボクの最初のデッキが完成しました。

「で、できましたあ……」

どっと疲労感が押し寄せてきました。た、大会用のデッキ組んだ時でさえこんな疲れることなかったんですけど。

自分が知らないカードゲームを一から始めるのが、これほど大変だとは。遊戯王とはまったく勝手が違うからなおさらでした。

けれども、疲労と同じか、それ以上の満足感がありました。

強いカードや弱いカードを組み合わせて、新しい発見を見出した時の喜び。それと似ています。やっぱり、あれこれ考えて、苦勞して自分でデッキを作った時のあの感じは良いですね。

「最初強いカードにしか目が行かなかった人とは思えない発言よね」

紗雪ちゃん水をささないでください。折角余韻に浸っているんですから。

「本当なら、始めたばかりのうちにはもつと分かりやすいデッキの方が良いんだけど」

「大丈夫です！ ボクにかかればどんなデッキだってお茶のサイサイです！」

「その自信はどこから湧いてくるのかしら」

さて、いよいよ完成したこのデッキのお披露目といきたいところなのですが、残念ながら紗雪ちゃん、今日は自分のデッキを持ってきていないのです。だからさつき初心者用デッキなんて借りてたんですね。

また同じデッキでお願いしても良いのですが、いかんせん向こうは初心者用デッキなので動きが単純で、何度も見ていると弱点が分かってくるのでそれに合わせて動かせてまいります。

なら違うデッキを借りて来よう、と紗雪ちゃんが席を立とうとした、その時でした。

「フッフッフ……対戦相手をお求めかい？ それなら、このオレが相手をしてやろう！」

どこからともなく声がしました。

紗雪ちゃんと一緒に振り向くとそこには、赤い髪に全身黒いビニルスーツみたいな格好の少年が立っていました。

「毒蛇王蛇美羅！ このポイズンデツキでな！」

……………えつと。

「1、1、0と……」

「コラコラコラ！ なんでだいきなり通報しようとしてんだ！」

そりやあ変態を見たら即通報は常識ですよ……つて、ああ、よく見たらライダーじゃケツトみたいな感じですね。てつきり幼くして才能を開花させた若き変態かと思いましたが。多分この考えは間違っていないでしょうそうですね。ていうかどうにかならな

いんですかそのセンス。もつと腕にシルバー巻くとかさ！ ないですね。というかT Mレ○リユーシヨンで見かけたような……。

「あら、誰かと思えば変た、蛇美羅じゃない。何しに来たのよ」

「へっ！ 久しぶりにシヨップに来てみりや、新入りがいるじやねえか！ だつたら先輩からのゴアイサツつてことで、俺様の新デッキの餌食にしてやろうつてわけだ！」

「また近所の年下の子供相手に負けたからつて、初心者でストレス発散するなんて見苦しいわよ」

「ぐ……うるせーっ！ オレ様だつてな！ いつも一生懸命なんだよ！」

ちつとも意味が分かりませんが、もしかして対戦したいんですかね？ この年頃の男の子つて素直じゃないから、下手に刺激しちゃうと意地張っちゃうみたいですよ。

「ここは一度落ち着いてもらいましょう。」

「ステイステイ」

「シャーッ！ 犬じゃねーんだよ！」

キャンキャンうるさい人ですね。

蛇美羅とかいう少年は既にやる気満々でした。人の話はちゃんと聞きましようつて先生に教わらなかつたのでしょうか。

まあ、そんなに勝負したいならしてあげるのもやぶさかじゃないのですけれども。た

め息をつきながらもデツキを持ったボクを見て、紗雪ちゃんはギョツと目を剥きました。

「ちよつとりオンちゃん、大丈夫なの？ まだあなた初心者なのに。蛇美羅だつてどれだけ三下臭漂つていてもあなたよりデュエマ暦長いのよ？」

「大丈夫ですよ。年下の子にボコられて泣き寝入りするような変態コスプレイヤーには負けません」

「お前ら……！」

わなわなと震え出す蛇美羅とかいう少年。ちよつとイジリすぎましたかね。

「俺様を侮辱しやがったこと、後悔させてやるぜ！ いくぜ！ シールド展開！」

デュエマ・スタート
決闘開始